第4回 四街道市教育振興基本計画策定委員会会議次第

日時:平成30年7月26日(木)

午後3時から

場所:青少年育成センター2階会議室

- 1. 開 会
- 2. 会長挨拶
- 3. 議 事
- (1) 計画書素案について
- 4. その他
- 5. 閉 会

四街道市教育振興基本計画策定委員会会議録

日 時 平成30年7月26日(木) 午後3時~午後4時30分

場 所 四街道市青少年育成センター2階会議室

出席委員 会 長 田村 孝

副 会 長 花井 育代

委 員 安江 博昭

委 員 植谷 祥

委 員 中村 圭吾

委員神田雅美委員山内和子

委員山内和子委員窪ケイ子

委 員 金子 篤正

委 員 上田裕佳子

委 員 中尾 英夫

欠席委員 委 員 池田 覚

委 員 米家 靖子

出席職員 教育部長荻野武夫

 教 育 部 次 長 濱田 宗孝

 教 育 総 務 課 長 伊藤 克紀

学 務 課 長 沖永 寛

指 導 課 長 秋庭 行雄

社 会 教 育 課 長 内海 正憲

スポーツ振興課長 野口 周平

図 書 館 長 小野日実子

青少年育成センター所長

北部共同調理場所長 加藤 直子

遠藤 茂志

教育総務課総務係長 井上 隆博

教育総務課主任主事 上杉 光栄

教育総務課主事 加藤耕平

教 育 総 務 課 主 事 久保木健太

傍 聴 人 2名 (男性0名 女性2名)

1. 開 会

○教育総務課長 皆様、こんにちは。定刻となりましたので、始めさせていただきます。 ただいまより第4回四街道市教育振興基本計画策定委員会を開会いたします。

はじめに、策定委員会会長の田村様よりご挨拶をいただきたいと思います。

田村会長、よろしくお願いします。

2. 会長挨拶

○田村会長 暑い中、お疲れさまです。何か今年の夏は異常な暑さで、暑さの盛りのときにこの素案を作られ、我々一生懸命読みましたが、前回の素案の案に関していろいろご審議をいただき、文言の訂正から目標値の書き方、内容にかかわるご意見をいただいて、意見が反映されて今日の素案ができていると思います。今日は、もう一度ご覧いただいた上で審議していただいて10月に向けてこの案を作っていきたいと思います。どうぞ、ご意見をお寄せいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

3.議事

○教育総務課長 どうもありがとうございました。

それでは、ここから先の議事進行につきましては、四街道市教育振興基本計画策定委員会条例の 第4条第3項に会長は会務を総理し、策定委員会を代表するとあり、同第5条第1項に会長が議長 とありますので、田村会長が議長となりまして進めさせていただきたいと思います。

それでは、田村会長、よろしくお願いいたします。

○田村会長 よろしくお願いいたします。一応16時半ぐらいをめどに会議を終えたいと思っております。

はじめに、定足数の確認をいたします。本日、現時点では2名の委員が欠席ですが、四街道市教育振興基本計画策定委員会条例第5条第2項の規定に基づく定足数である過半数には達していますので、本会議は成立します。現在11名の委員がご出席です。

次に、議事録署名人の選出ですが、議長の指名となっておりますので、今回は上田委員にお願い したいと思います。

議事に入る前に、本日の会議の公開、非公開を決定したいと思います。

資料を見たところでは非公開情報はないようですので、公開とし、会議資料については傍聴人の 閲覧に供するものとしたいと思います。このうち会議次第については配付すること、あわせて議事 録の公開及び発言者氏名の明記もよろしいですか。

(異議なし)

○田村会長 ご異議ないものと認めます。

会議に入る前に傍聴人の皆様にお願いしたいと思いますが、本日会議を傍聴される皆様にお配り してあります会議資料のうち、会議次第はお持ち帰りいただくことが可能です。ただし、その他の 資料につきましては、回収させていただきますので、ご了承お願いしたいと思います。

(1) 計画書素案について

○田村会長 では、この計画書の素案について事務局よりご説明をお願いいたします。 教育総務課長、お願いいたします。

○教育総務課長 それでは、私からご説明させていただきます。

議題(1)、計画書素案についてですが、5月に行われました第3回四街道市教育振興基本計画 策定委員会等で出されましたご意見等をもとに修正等をいたしまして、下線でお示ししている主な 箇所につきましてご説明をさせていただきます。事前に送付させていただきました素案の1ページ をお開き願いたいと思います。

第1章、計画の策定の1、計画策定の趣旨の中で、元号の質問の件です。元号につきましては、来年の5月1日から天皇陛下が新たに即位されるということで変わることとなりますが、正式な元号の名称につきましては、来年の2月以降にならないとわからないという状況です。また、その元号等についてのガイドラインも現在のところ出ておらず、当市といたしましても、元号の表記をどうするかという具体的な話し合いは行われておりませんので、現状においては平成31年から平成35年とさせていただきます。なお、市において総合計画を初めさまざまな計画を策定しておりますことから、他部署等の計画とあわせて最終的に市として統一的な形で表記したいと考えております。次に、2ページをお開き願います。3の計画の策定体制の7行目になります。「策定に対しては、教育委員会内部組織として四街道市教育振興基本計画策定本部会を」となっていましたところを、「策定に対しては、四街道市教育振興基本計画策定委員会条例を制定し」に改めております。その下に記載されておりました体系図は削除しています。

次に、5ページをお開き願います。第3章、教育の現状の1、教育をめぐる社会変化の3行目になります。「我が国の人口は、平成28年12月1日現在で1億2,691万人で」となっておりましたところを「我が国の人口は、平成29年12月1日現在で1億2,669万4,630人で」に改めました。

また、その下の住民基本台帳による本市の総人口は9万3,211人、平成30年3月1日現在は最新 データである3回目の資料と同じとなっています。

次に、6ページをお開き願います。(2)の核家族化の中の5行目になります。本市においては、総世帯数の3万4,876世帯で、5ち核家族世帯数は2万4,292世帯となっておりましたところを、本市における総世帯数は3万5,014世帯、5ち一般世帯数は3万4,876世帯に改めました。

その下の行になりますが、ここで例えば全国平均とか、県の平均とかそういう数値があると比較しやすいのではないかというご意見がありましたことから、「割合としては前回の71.5%、平成22年度国勢調査からやや減少しましたが、依然として核家族世帯の割合が高い地域であることがわかります」となっておりましたところを、「割合としては前回の71.5%、平成22年度国勢調査からやや減少しましたが、全国及び千葉県(59.0%)、平成27年国勢調査と比べ依然として核家族世帯の割合が高い世帯であることがうかがえます」に改めております。記載済みの全国平均に比べまして県の平均値も加えたものです。

次に、7ページをお開き願います。2の四街道市における教育の現状の(1)、学校教育の3カ 所につきましては、「楽しいか」という問いに対し、または「ありますか」という問いに対しまし て、なっておりましたところを、「楽しいかと質問したところ」または「ありますかと質問したと ころ」に改めています。

次に、8ページをお開き願います。下線で示されている「ティームティーチング」ですが、この 箇所の変更場所は特にございませんが、別ページにおきまして、「チームティーチング」という言 葉がありましたことから「ティームティーチング」に共通を図っています。

続いて、9ページをごらんください。一番下の行で「また少子化に伴う児童生徒数の減少と転入 等に伴う増加等、児童生徒数の推移を勘案し」となっておりましたところを「また、転入、転出に 伴う児童生徒数の増減などその推移を勘案し」に改めています。

次に、10ページをお開き願います。9行目ですが、「について伺ったところ」となっておりましたところを「について質問したところ」に改めています。同じページの(2)の家庭教育の3行目ですが、「人間関係でもエチケットや社会の決まり事」となっておりましたところを「人間関係でのマナーや社会の決まり事」に改めています。

また、その下の下線は、「心がけているかを保護者にうかがったところ」となっておりましたところを「心がけていること」と「質問したこと」に改めています。

次に、11ページをごらんください。4行目になります。「どのような取り組みが必要だったと思うかを保護者にうかがったところ」となっておりましたところを、「どのような取り組みが必要だったと思うかと質問したところ」に改めています。

次、12ページをお開き願います。5行目の「スマホ老眼など近年起こり得なかった」となっておりましたところを「スマホ老眼などこれまで起こり得なかった」に改めています。6行目のアンケートで「児童生徒に自分専用の携帯電話やスマートフォンを持っているかとうかがったところ」となっておりましたところを、「アンケートで児童生徒に自分専用の携帯電話やスマートフォンを持っているかと質問したところ」、と改めています。下から3行目になりますが、「携帯電話にフィルタリングがかかっているかとの問いに対して」となっておりましたところを「携帯電話にフィルタリングがかかっているかと質問したところ」に改めています。

また、下から1行目の「かかっているとなりました」となっておりますが、「かかっていると回答しました」に改めています。

次に、13ページをごらんください。(3)、生涯学習・芸術文化・スポーツの4行目、「今後もさらに学習意欲が高まるもの」となっておりましたところを、「今後もさらにニーズが高いもの」に改めております。

次に、6行目の「アンケートで満18歳以上の市民、回答776人に生涯学習をしたことがあるかについてうかがったところ」を「アンケートで満18歳以上の市民、回答776人に、この1年間で行った生涯学習と質問したところ」と記載しておりますが、正しくは、「この1年間で行った生涯学習について質問したところ」が正しいというところがございまして、大変申し訳ないのですが、「生涯学習と」の「と」のところを「について」に訂正をお願いします。

続きまして、15ページをお開き願います。7行目になります。「平成29年に市民のための図書館、四街道市立図書館の運営方針を策定し、市内唯一の図書館として市民に役立つ図書館としてサービスの充実を図っています」となっておりましたところ、「市内唯一の図書館として」の文言をまず削除し、「平成29年に市民のための図書館、四街道市立図書館の運営方針を策定し、市民に役立つ図書館としてサービスの充実を図っています」に改めています。

次の下の下線2カ所につきましては、「今後スポーツを行いたいかという問いに対し」と、「今後スポーツを行いたいかうかがったところ」を「今後スポーツを行いたいかと質問したところ」に 改めています。

次に、18ページをお開き願います。ここは、第4章の前期計画、平成25年から平成30年の成果の課題の基本方針1、これまでの取り組みと成果のうち③、たくましい子どもたちを育成しますの10行目、「共催で年1回開催しました」となっていたところを、「共催で年1回実施しました」に改めています。

次に、19ページをごらんください。今後の課題の1、②、強い心と正義感を育成します」の下から4行目になります。「市いじめ防止対策推進条例等に基づいた学校いじめ防止基本方針の周知と毎年の見直しが必要です」となっておりましたところを、「市いじめ防止対策推進条例に基づき、各学校で定めたいじめ防止基本方針の周知と毎年の見直しが必要です」に改めています。

次に、21ページをお開き願います。基本方針2のこれまでの取り組みと成果のうち、①、「魅力ある授業を推進します」の2行目の欄に「チームティーチング」となっておりましたところを「ティームティーチング」に改めています。

次に、②の夢を育む教育、「外国語教育等多様な学びを推進します」の5行目、「平成29年度より旭中学校区5校の英語教育推進モデル校に推進し」となっておりましたところを、「平成29年度より旭中学校区の4小学校を英語教育推進モデル校に指定し」に改めています。

次に、23ページをお開きください。今後の課題の②、夢を育む教育、「外国語教育等多様な学びを推進します」の1行目末尾ですが、「義務教育9年間を通した学習計画を立案するとともに、学校や地域の実情に合わせて児童生徒一人一人の職業的、社会的立場に、自立に向けて」となっておりましたところを、「義務教育9年間を見通すとともに児童生徒一人一人の職業的、社会的自立に向けて」に改めています。

次に、29ページをお開き願います。基本方針4のこれまでの取り組みと成果の1の①、生涯学習活動、「地域づくりのための生涯学習環境の整備を図ります」の1行目です。「地域のスポーツ活動の拠点として総合公園体育館で活動している」となっておりましたところを、「地域のスポーツ活動の拠点として総合公園体育館等で活動している」ということで、「等」という中には多目的運動場も含まれるということで「等」と入れさせていただきたいと思います。

次に、33ページをお開き願います。基本方針6のこれまでの取り組みと成果の1、②の「子どもたちが健全に育つ環境づくりを推進します」の14行目、「新成人式のつどいを成人式実行委員会市内在住の有志19歳と20歳の受講生徒の共催により毎年開催し」となっておりましたところを、「新成人式のつどいを成人式実行委員会市内在住の有志19歳と20歳の受講生と毎年共催することにより」に改めています。

次の下線の箇所につきましては、「また、青少年育成センター2階会議室について児童生徒を対象としたオープンスペースとして開放し」となっておりましたところを、

また、児童生徒を対象に青少年育成センター2階会議室をオープンスペースとして開放し」となっています。

次に、34ページをお開き願います。目標の6ですが、目標項目のこども110番の家、登録件数についてですが、にんべんの「件」か、車へんの「軒」かというご質問がございましたことから、後

期の計画の目標につきましては、にんべんの「件」で登録させていただきたいと考えて掲載しています。

次に、39ページをお開き願います。第5章、基本方針と主な施策の2、基本方針と主な施策の基本計画1、(4)の主な施策の1、③、「たくましいこどもを育成します」の1、子どもの体育向上の推進の5行目です。「競技力の向上と教職員の指導力向上を図り、世界で活躍するスポーツ選手やアスリートの誕生を目指します」となっておりましたところを、「競技力の向上と教職員の指導力向上を図ることでスポーツの楽しさや喜びを味わえ、将来にわたって豊かな運動習慣を身につけた子どもの育成を目指します」に改めています。

次に、41ページをお開き願います。基本方針2の(1)の現状と課題の下から7行目、「さらに英語検定3級以上の英語力を有する率」となっておりましたところを、「さらに英語検定3級程度の英語力を有する率」に改めています。

次、42ページをお開き願います。(3)の目標の設定の全国学力・学習状況調査の目標についてですが、前回の策定委員会におきまして、さまざまなご意見をいただきましたことから、そのご意見を踏まえた上で再度検討した結果、「目標につきましては前期計画と同様に全国平均を上回ります」といたしました。その下、「千葉県標準学力検査の平均得点」についても同様に、「県平均を上回ります」に改めています。

次に、51ページをお開き願います。基本方針4の(4)、主な施策の②、心身ともに健康な生活を送るためのスポーツ振興を推進しますの、施策の次第2、活力あるスポーツ活動の支援の冒頭から「スポーツ活動が多様化、高度化している中、市民ニーズに応じた質の高い指導ができる人材の育成(活用)を図ります」となっておりましたところを、「スポーツ活動が多様化、高度化している中、市民ニーズに応じた質の高い指導ができる人材の養成(活用)を図るとともに、個々のライフスタイルに応じて健康づくりをはじめとした身体を動かすことへの習慣化が図れるように努めます」に改めています。

続きまして、同じページの③、「高等教育機関等との連携と地域人材の育成、活用を推進します」の施策の次第1、高等教育機関等との連携した学習機会の提供の2行目です。「市民大学講座、市民活動や人材育成に重点を置いた講座」となっておりましたところを、「市民大学講座において市民活動や人材育成に重点を置いた講座」に改めています。

次に、53ページをお開き願います。基本方針5の(3)、目標の設定の3番目、市民文化祭参加者数の目標数値を2万8,000人となっておりましたところを2万9,000人に改めています。

次に、56ページをお開き願います。基本方針6の(3)、目標の設定の3番目、こども110番の家、登録件数ですが、先ほども申し上げましたが、件数をにんべんの「件」にしたことから修正をしています。

続きまして、その下、愛の一声運動としての街頭補導回数となっておりましたところを、愛の一 声運動としての街頭補導活動の回数に改めています。

以上が、議題1、計画書素案についての5月に行われました第3回教育振興基本計画策定委員会等におけるご意見等をもとにして修正したものの主な箇所です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○田村会長 どうもありがとうございました。主に網かけ下線部についてですが、前回出たご意見を参考にして事務局で訂正をしていただきました。これは、討議に当たって、またこれも多数決で結論を出すというようなことではありませんので、今日、いろいろご意見をいただき、もう一度訂正する機会があるようですので、今ご報告があったところ及びそれ以外のところも改めて読んで気がついたようなことをご自由に出していただきたいと思います。ご意見ご質問がある方は挙手をして、お名前を冒頭におっしゃっていただいて発言をお願いします。いかがでしょうか。

- ○花井委員 よろしいでしょうか。
- ○田村会長 どうぞ。はい。

○花井委員 花井です。5ページなのですが、少子高齢化の問題が書かれていますね。1番、少子高齢化。そして、次の6ページのところの(2)、核家族化というのが書かれておりまして、少子高齢化が問題になっているということをみんな認識しているのですが、核家族化によって、当市の教育振興計画にどのように影響しているのかということが書かれておらず、わかりづらくなっているかと思います。そして、親と子だけではなく夫婦2人の世帯も核家族の定義に入っているので、もし3世代以上で同居している家族と親と子だけの世帯で比較したのであれば、もう少し詳しい数字を見せてもらえると良いのではないかと思われる次第です。このあたりのところ、もう少しわかりやすくまとめていただくことはできないですか。

○田村会長 事務局、どうぞ。

○総務係長 教育総務課の井上です。よろしくお願いします。ただいまご質問いただきました少子高齢化、それから核家族化のところで、核家族化の数値についてもう少し具体的にということですが、細かい数字を載せるとなると、今、花井委員がおっしゃった3世代以上同居する世帯の数値等、複雑な数値が出てきてわかりにくくなってしまう部分もありますので、詳細なデータについては、このままで行きたいと考えております。ただ、核家族世帯について、教育振興基本計画とのつながりがわかりにくいというところがありますので、その部分につきましては、(1)の少子高齢化と(2)の核家族化のことを総括し、併せて教育についての考えを文末に加筆したいと思います。そこで、加筆したい内容については考えましたので、私からサンプルを読んだ方がよろしいでしょうか。

○田村会長 基本的な文章ですか。

○総務係長 はい。加筆する文章ですが、「今後、少子高齢化や核家族化が進むことで世代間交流 の機会を充実させるほか、地域人材の活用により学校運営をサポートするボランティア活動の推進 や家族の教育機関の充実をさせるために学習機会を提供する家庭教育の支援など家庭、学校、地域 の連携による教育力の向上がさらに重要になると思われます」という内容です。つまり核家族化、

少子高齢化によって家族関係が希薄になってしまったり、また少子高齢化によってその世代間交流がなくなってしまったりと。そのようなところで、今まであった交流については家庭、学校、地域が連携してそれぞれサポートして補っていく必要があるという内容です。具体的には地域の、学校運営をサポートするボランティア活動の充実、そして学校で、家庭教育学級とかそういった部分でのさらなる充実など、今後少子高齢化や核家族化が進んでいく中でもっと必要になるのではないかということを文末に加えさせていただきたいと思います。

以上です。

- ○田村会長 よろしいですか。
- ○花井委員 はい。
- ○田村会長 その文末というのは、この1と2を合わせた文末みたいな形になります。
- ○総務係長 そうですね。1だけではなくて、1と2合わせて。2のところに、「高い数字であることがうかがえます」の後に「今後」という形でつなげさせていただければと思っています。
- ○田村会長 その文章が手元にないのであれですが、今お話いただいたような内容を事務局につけ 加えていただくということで。

(異議なし)

○田村会長 ありがとうございました。では、ここは、「高い数値であることがうかがえます」の 後に井上さんから出た詳細をつけるという形で納めたいと思います。

ほかに。

安江委員。

- ○安江委員 安江です。よろしくお願いします。今のところに関連しての話ですが、(1)の少子 高齢化、(2)の核家族化に関してこのような社会教育面と社会変化があり、だからどうするということで、井上係長がつけ加えられていました。やはり同様に、(3)の情報化に伴う社会資質の変化、(4)グローバル化に対してこういう状況であるから教育としてはこういうことが求められるような書き方をするのが望ましいのではないかと思いますが、いかがでしょうか。
- ○田村会長 3番ですね。
- ○**安江委員** はい。例えば情報化の進展が今このようになっているから、教育としてこういう能力が必要だ、求められているのだということが触れられるといいのではないのかと考えます。いかがでしょうか。

〇総務係長 今、安江委員からいただいたご意見で、(3) につきまして、例えば今言われています AI、それからI o T、インターネット・オブ・シングスもどんどん進化していく中で、今後教育においてはプログラミング教育だとか、今も問題になっていますが、情報モラル教育、そういったものをさらに充実させるというような内容のことを、(3) の文末に加えていただきたいと思います。文章のほうは、そういった内容で考えさせていただければと思います。

○田村会長 はい。 よろしいでしょうか。

(異議なし)

- ○田村会長 ほかに。植谷委員。
- ○植谷委員 和良比小学校の植谷といいます。現場のほうから42ページの全国学力・学習状況調査、「全国平均を上回ります」。「千葉県とその学力検査の平均得点の県平均を上回ります」と言い切っていますが、違和感があります。「上回ることを目指します」というのなら現場の先生もわかりますが、言い切っていることに危険を感じます。

理由は2つあります。1つ目は、千葉県標準学力検査というものは問題が10年間変わりません。 ということは、問題がわかっているベテラン先生と若手の先生に差が生じているのは当たり前なの ですが、言い切ることによってさらに差が生じると考えられます。

2つ目は、22ページに、「千葉県標準学力テストと全国学力・学習状況調査を比較すると」と書いていますが、実は県の標準学力テストは、どちらかというと一問一答形式のいわゆるワークテストの延長線上にあると考えております。ただし、全国学力・学習状況調査は、A4の用紙2枚程度を読んで、それを理解して、そして自分なりに考えて回答をするというような、これが今求められる学力で、活用力を求めるテストです。ですから、この2つを比較しても関連はそれほどしていないのではないかと考えるところもあり、一律に比較するのはいかがなものかと思います。ですので、全国平均を上回りますという言い切り方は現場としては違和感があります。

以上です。

- ○田村会長 ここは前回でもいろいろお話が出たところですが、下は増加を目指しますという42ページの「目指す」という言い方になっているのですが、こちらは「全国平均を上回ります」という言い方になっており、たしかに後でこの表記をするときに上回っていないではないかと、そういうことになる可能性もあると思います。千葉県の標準学力検査が10年間問題変わっていないというのは、今初めてうかがったのですが、同じ問題が出るのですか。
- ○**植谷委員** もうすぐ教科書が改訂されますので問題は変わると思いますが、問題が変わりまして、 また教科書が変わるまで同じ問題が続きます。
- ○田村会長 そうですか。それを上回るために過去問ばかりやらせれば、教育とかそういうことが。

- ○植谷委員 そういう危険性があります。
- ○田村会長 危険性がありますね。前回はそれが出なかったので、はっきりと私も知らなかったのですが、ここはいかがでしょうか。「全国平均を上回る努力をいたします」か「上回ることを目指します」。「目指す」がいいですかね、下と合わせると。どうですか。
- ○総務係長 今のところですが、第3回策定委員会での皆さんの意見を参考に、策定本部会に持ち帰って慎重に検討した結果、前期計画では「全国平均を上回ります」という表記でしたので、引き続き、この目標を掲げるようにしましょうということで、今回上げさせていただきました。しかし、さまざまな意見があると思いますし、一概にそれでということで片付けるものではなく、議論が必要だと思いますので、ぜひこの場で委員の皆様、どのような目標がいいかということをお話し合いしていただいて、その結果をもって、最終的な結論にしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。
- ○田村会長 では、この件に関して今のご意見から、またこれは前回の議論になるかと思いますが、 何かございますか。

花井委員。

- ○**花井委員** 花井です。仮に結果が全国平均等を上回った場合、次に目指すところがなくなりますので、文言として「全国平均以上を目指します」という内容でどうかと思いますが、いかがでしょうか。
- ○田村会長 以上を目指します。修正意見ですね。金子委員。
- ○金子委員 これについてですが、「上回る」と「目指す」とどう違うのでしょうか。「上回る」と「目指すこと」は、上回ることを目標にしているわけですよね。言葉としてはいまいちだと思います。私の意見ですが、過去の傾向とか、それから私が見た限りの四街道の教職員の力とか、あるいは教育委員会の力、それから子どもたちのレベル、地域の教育レベル等を見たときに、私はちょっと努力をすれば、全国平均を上回ることは間違いなくできると確信しているわけです。そういうのをあいまいにするのを目指しているのではなくて、全体的にある程度目標を掲げてほしかった。それで、仮に、では上回らなかった場合にどうするかということを考えればいいわけです。やっぱり何か目標を掲げないと、何となくぼやかしたような、私は非常に曖昧でいかがかと思います。私は、この表現でよしと、強く感じます。

以上です。

○田村会長 金子先生は、「上回ります」でいい。そういうご意見ですね。

いかがでしょうか、そのほかのご意見。

前回は、その目標をがっちり固定してしまうと、それに合わせた教育になってしまうという意見。 たしか池田委員だったと思いますが、現場の先生からかなり出されて、そこが例えば問題が10年間 変わらない、来年も多分同じであろうということになると弊害が出てくる可能性もあるし、そこは 現場の方の裁量というのを私は重視したほうがいいと思います。昔、全国の学テでも福島県だった か、忘れてしまいましたが、何か、試験の当日は成績の悪い子を休ませる。君はあした休みなさい というような。そういうことを学校が指導して高得点を上げて全国1位だとか2位だとかというよ うな。教育の機会を奪うということで、明らかに弊害だと思います。幾らなんでもそこまでという ことはないと思いますが、やはりこの目標を上回ることが至上命令になると、なぜ先生のクラスは、 これが上回らないのですかとか、かなり現場にゆがみが出てくるような感じがします。

私は、出発が高校の進学校の教師だったのですが、それは、もう旺文社の平均点が浪人の平均点を上回らなければだめだというようなことを教頭や校長からがんがん言われて、そういうところから教師生活をスタートしたのですが、本当の歴史教育はやっぱりできないなというようなことを感じた経験があります。ですから、全国平均を上回ります、目指しますというのは違うようでいて、やっぱり同じようでいて違うのです。教育の本来の目的で結果が後からついてくればいいのですが、そこへ至る過程が上回ることだけを目標にすると、これが何年も続いていくと。特に最近の教育現場は若い先生が多いので、教育というのはこういうものなのかとなってしまうのもよくないだろうとも考えます。そうすると、私はこのように「上回ります」という言い切りよりも「目指します」と言ったほうが、これは曖昧で逃げ場をつくっているのではないかと思われるかもしれませんが、いや、それは違うと。教育の本質というのは、結果オーライではないと。その経過がむしろ大事なのだというようなことを含めた言い方だというようなことを、どこかに少し注記でもしておけば、私はこちらのほうが今「目指します」とおっしゃった意見のほうが多分教育の本質には合うのではないかと感じます。「目指します」、「上回ります」も、本当に僅少の差ですから、どちらかというと、教育の本質を体現する言葉としては「目指します」のほうがいいのではないかと私は感じるのですが。いや、そうではないという。

金子委員。

○金子委員 確かにこの学テで過去においては、どの県がいいとか、あるいはどこの学校がいいとか、どこの場所がいいかという、そういう競争はいたしましたが、今恐らくどこの教育委員会でも競争していないわけです。私は、上回ることを目指して頑張ることのほうが子どもにとっても、先生にとってもいいことだと思います。ここに曖昧に上回るのを目指すといって、何となくぼやけているのではないかと思うのです。あくまで自分の教えたことがいい結果として表われるほうが私は教育の本質だと思うのですが。

だから、目指すとか何かそういう議論はいかがかと。もし、そう言うのであれば、ここは最初からはっきり数字で出ているものを入れなくていいのかという議論になりますよね。数字を入れるなら、では、だめならどうするかという議論になると思うのです。

○田村会長 はっきり数字では出さないようにすることは、前回でそういう申し合わせではなかっ

たですか。

○金子委員 ですから、このことだけは、ちゃんと議論して結果が出ているわけで、私は、これはいいと思っています。結果、数字が出てくるわけです。さっきから申し上げているように、だからといって、そのところの学校をけしからんという言い方は誰もしていないと思うのですが、ただ、今おっしゃった若い先生が多かったかもしれないし、あるいは教え方が若干物足りないのだったら、やっぱり結果が出て、その結果を振り返る。それが、私が言った四街道の能力からすれば、間違いなく私は全国平均を上回る結果が出ると思っていますので、ぜひ頑張っていただきたいという私の切なる願いでございます。

○田村会長 ほかに何か。 神田委員。

○神田委員 神田です。保護者の立場として見たときに、上回りますと言い切ってもらったほうが子どもの尻をたたきやすい。ただ、目指しますだと、人任せでいいのかと思ってしまうちょっと弱いところもあるかと思います。なので、上回りますと言い切ってもらったほうが、ああ、頑張ってやらなくてはいけないよねと、力を注ぎやすくなるかと。ただ、現場の先生方のご意見を伺うと、それが果たして本当にいいことなのかというところは、ちょっと難しいところだと思います。

○田村会長 山内委員、どうぞ。

○山内委員 山内です。ニュアンスの問題だと思いますが、私はこの目標を掲げるには子どもだったら、ここは「全国平均を上回ります」でいいと思うのです。子どもが自ら目標を持つのであれば。ただ、この目標を掲げるには現場の実際に教育をする先生方であるのだとすると、「目指します」のほうが、子どもたちにこう目指すために勉強をさせるということで、現場の先生のお気持ちとしてはそのほうがいいのではないかと思います。

○田村会長 なかなか難しい、教育の本質論にいくところですが。あと、指導ですね。 はい。

○金子委員 まず、県のほうは余り詳しくないので、全国学力調査についてテストの点、試験の内容を見てください。あれは、学校のちゃんと授業を受けていれば、ある程度正答できるような問題が多いのです。つまり、受験勉強と違ってひっかけ問題とか落とそうという試験ではないのです。学校や子どもたちの実力がそのまま出てくる訳で、そういう意味では、それがすごいプレッシャーになって、子どもたちがもう毎日頑張らなければいけないとか、先生方がこれでどうしてもということではないと思っています。結果はともかく、あえて目標を掲げていただきたい。これは、市民としても多少教育に関係した者としてもよろしくお願いいたします。

○田村会長 いかがでしょうか。
はい。

○中村委員 すみません、中村です。前回の資料を見ると、全国平均正答率の比較数値で前年度より上回る数値という目標を掲げられていた中での議論がされた話と記憶しています。先ほど山内委員がおっしゃったように、「上回ります」か「目指します」と、ニュアンスの問題かと思います。ですから、「増加させます」、「増加を目指します」の違い、余り重要ではないと思っていて、どこのポイントを目標に据えるかと。全国平均以上という目標にするのか、それとも昨年度の正答率以上を目指すのかというところでもあるかと思います。いずれにしても、子どもたちの学力のアップを目指すというところでいくと、言い回しでは「上回ります」でもいいかもしれませんが、現場の先生方という配慮もあったと思うのですが、この計画を見ると、44ページには家庭等の連携による学習習慣とか、子どもたちの学びを支える支援だとか、学校教育だけでなく、先ほどおっしゃったように、地域や家庭や学校、この三者で子どもたちを伸ばしていくという意味合いが強い計画だと思いますので、言い方をそろえるかそろえないかで、あとは全国平均にするか、正答率より上を目指すかというところかと思います。平均値は、やはりその年によって変わっていくので、市内の子どもたちの成長とか、授業力の改善という視点で見ると、ちょっと議論が戻ってしまいますが、昨年の正答率よりも上を目指すというほうが成長を感じられるかという気はいたしますが、いかがでしょうか。

○田村会長 前回は、5年間で昨年の正答率と、だんだん累積して前より上がっていくと、さらに それより上げなければどんどん飛び石になってしまうという、そういうご意見があって、こういう ところにもついたのだと思います。

ですから、ただし書きをつけるとか何かすればどちらの表現でもいいかと思います。ただ、私がちょっと危惧するのは、これは私の経験からですが、結果だけ上回ったからいいだろうと。上回っていないのに何だよ、おまえのところちゃんとやっているのかというような。そうはならないだろうと金子先生はおっしゃいましたが、なかなかそこは微妙で、結構そうなりがちです。それで、全国平均を上回れなかったところは、その先生は申し訳ありませんとやるところから反省会が始まる。やはりそうでなくて、上回らなかったが、では、その原因は何で、どういうところにあって、もっと教育にお金を回しておかなくてはいけないとか、いろんなことがあると思うのですが。設備をもっとよくしてほしいとか、そういう建設的な見直しにいけば、どちらのものでもいいと思うのです。ただ、どちらのほうがより事態の悪化を招くようなことがあり得るかという、そういう問題だと思います。みんなが建設的に論理的に考えられる人ばかりではなく、どうも学校関係者でもそうではない人が私の経験で何人かいました。管理者となっていくとだんだん違ってくるので多分そういうような人もいると、その危惧が若干なきにしもあらずです。上回りますという意味。それを多分現場の先生は危惧されていると思います。

それで、市民とか、例えば親だったらこう上回らなければだめと、あなた頑張るのよという、そういう発破をかけるにはこっちがずっといいだろうと思います。子どもは余りそんなこと気にしていないと思いますが。いかがでしょうか。「全国平均を上回ります」。あるいは「全国平均を上回

ることを目指します」と。基本的にはそんなには違わないのですが、ニュアンスの問題だと言って しまえばニュアンスの問題です。評価のときに、どちらのほうがより危険性が大きいか、大きくな いかという問題です。

ほかに別の角度から何かご意見ございますか。 金子委員。

- ○金子委員 金子です。現状、たしか私の感じでは各学校はそれぞれの結果については、保護者に出していますよね。これは、今までクローズされたものが割とオープンに出されて、恐らく分析されていると思いますので、今おっしゃられたような、会長がご心配しているようなところですが、保護者も子どもも、他の先生も、あるいは市も含めて皆で上回るように頑張ろうとか、もし若干思ったより悪かった場合には、どうしたらいいだろうと考えるという気があったと思います。もっと言わせてもらえば、平成35年度まで平均を上回るのか、それとも毎年度に平均を上回るのか、どのように捉えているのかかが問題なのですが。最後の5年目だけ上回ればいいという、この辺りも曖昧と言えば曖昧なのですが。常に平均を上回っていなくてはいけないのか。
- ○田村会長 これは、5年間のタイムスパンはどのように。 はい。
- ○総務係長 23ページをお開きください。表2のところで、年度ごとで前回は全国平均を上回るという目標を立てていましたので、30年度までに上回るということではないです。また、上回った、下回ったというところでは、5年後に全部の平均を上回るのは目標の中ではいいのですが、年度ごとにその年度の平均を上回ったかどうかというところを記載しております。
- ○田村会長 年度ごとですね。
- ○総務係長 はい。後期計画についても、基本的には前期計画と同じで、その年度ごとの平均を上回ることが目標だということです。
- ○田村会長 望ましいということですね。
- ○総務係長 はい。そのように考えておりますので、ご理解願いたいと思います。ただ、上回らなかったからだめだったとかということでは決してありません。あくまでも結果がそうなったということで、非常に難しい部分ではあるのですが、上回らなかったからだめだということでは決してございません。
- ○田村会長 いかがでしょうか。 はい。

- ○総務係長 もし差し支えなければ、安江委員や植谷委員のご意見を、また上田委員や中尾委員の ご意見をいただき、学校の事情等、皆さんそれぞれどのようなお考えがあるのかお聞きできればと 思います。お願いします。
- ○田村会長 いかがでしょうか。 では、植谷委員。
- ○植谷委員 和良比小学校の植谷です。小学校の6年生の全国学テというのは、小学校の3年生、4年生、5年生の問題だけ出ます。つまり6年生の問題は全く出ておりません。それを6年生が実施してどれだけマスターしているか、理解しているかを調べる問題です。我々が目指しているのは全国学テの結果を分析し、それを授業改善に生かすということです。ですから、下の学年でここができていなかったのだから、6年生はこういうふうに改善してやっていこうと考えます。そこに、6年生に「全国平均を上回ります」が目標ですとやられたら、確かにその6年担任がずっと担任であればいいですが、6年になってぽんっと担任を持ったときに上回りますと言われても、今までよりできているのかできていないかを分析して授業改善に生かすということが前提のテストですよねというふうに現場は考えます。目指すことは目指すのですが、その結果だけがぽんっとこう出ていくと、これはちょっと危険かなと感じるところです。
- ○田村会長 そうすると、6年生の授業は、6年生の学習指導要領に従って運営されていると思いますが、例えば3年生、4年生、5年生のところをクリアしていないなと思うような児童がクラスにいた場合、その小学校6年生の学習指導要領に沿った教科書でやりつつ、こういう3年生、4年生、5年生のちょっと到達できなかった児童に対する手当てもできるのですか。
- ○**植谷委員** 具体的に個別にやるということではなくて、授業をやる上で、例えば学び直しの期間を少し長くとって本題に入る等の形で授業を行います。
- ○田村会長 積み重ねになっている教科の話ですね。
- ○植谷委員 はい。
- ○田村会長 わかりました。6年生は6年生の課程を終えなくてはいけないし、到達していない児童はどうするかという問題も出てくるでしょうし、なかなか大変ですね。「上回ります」は、プレッシャーにはなると思いますが。

そのほかいかがでしょうか。 安江委員。

○安江委員 まず、全国学テについては、これは調査であり、そもそも点数云々で言うべきもので

はないので、これを現場の先生に点数を、成果を上げろということが、まずそこがどうなのかと思います。ただ、現場ではそうなのですが、確かに市民や保護者からするとわかりやすいかと思います。

○田村会長 この表現。

○**安江委員** はい。ただ、今植谷委員が言ったように、どこがどうできていないかというのを分析 して改善に役立てるものであるということなので、どちらの意見も最もだと思います。

それで、植谷委員がそこまで言うのはよくわかるのです。小学校というのは、自分のクラス、自 分の担任が教えているのでプレッシャーがすごくあるのかなということです。

- ○田村会長 全教科出ていますからね。
- ○**安江委員** しかも、その内容が自分が教えてきたことと、自分が教えていない子たちの結果になってくるので、小学校の先生にとっては非常にプレッシャーがかかるかと思います。

あとは、数字に振り回されてしまわないかというところもあるし、経年変化を見ないで、その年の子どもがどうかというのも、そのときによって子どもの状況が違うので、何よりも小学校6年生というのは毎年子どもが違うわけです。現場から言わせてもらうと平均点というのは非常に怖くて、要はすごくできる子が数人いれば平均は伸びますよね。逆の場合もあるのです。だから、平均点だけで判断するというのが非常に怖いと思うところです。では、ぼやかして「以上を目指す」というようなことでやれば、目標がぼやけてしまうのではないかというような金子委員の意見も最もだと思いますし、悩ましいところです。

○田村会長 そうですね。私も、小学生を教えたことがないので、小学校の現場のことが今いろいろわかって、ああ、そういうものなのかと思った次第ですが、確かに数字に振り回されてしまう。平均点というのはよくできる子とできない子による中間で出てくるもので、いろんなことが出てきてしまうので、平均点というのもなかなか評価のときに便利でみんなよく使いますが、実態をあらわしているかどうかというと、数字がひとり歩きしてしまうという面も多分にあるものですね。ですから、大事なのは個々の児童の成長とか理解をどう図るかとか、成績が芳しくない子はその子なりに頑張った、よくできる子はもっと頑張った。点は全然違うけど、頑張り具合は同じだよというような評価も教育ではとても大事なので、そういうところも含めた目標の文言というのはなかなか難しいです。確かに5年間で社会も変わるでしょうし、子どもたちの母体も変わってくるでしょうから、確かにこの10年間で考えると四街道も随分変わっていると思います。そういうこともあるので、「全国平均を上回ります」という、その言葉でいろんなことをあらわすのは難しいかもしれませんが、親とかの立場からすると、こっちのほうがいいというのがあるでしょうし、なかなか難しいですね。これは永遠の課題になるのですが。何かこちらで決めなければいけない。

どうぞ。

○**窪委員** 本当に難しいと思います。やっぱり私たち一般市民から考えると、この曖昧というのはしっかりと議論して、数値等がきちんと明記されたほうがどちらかと言えば見やすく、わかりやすいというか、教育委員会会議で行われていることが本当に全然わからないので、そのほうがすごくわかりやすいのですが、でも今委員が危惧するようなことをお聞きしたときに、やっぱり子どもたちにとって本当に自分の力が評価できるような何か文面があれば一番いいかと思いますが。平均というと、本当にできるところできないところがあり、例えば小学校の平均が上回っていたから、次にどうとか。平均点はいきたいし、いきたかったけど、勉強するときに頑張ってしまったという子どものほうが、すごく私は見ていて頼もしいというか、小学校のときはどうでもいいというか、そのように思うのですが、それを含めると、やわらかく目指しますみたいなところがあるような文面で落ちつかせたらどうかと思います。

○田村会長 先ほど花井委員は「全国平均を上回ります」について、「全国平均以上を目指します」 という文言にしてはどうかと修正案が出されました。これは、なかなかここで決定するのは難しい ですか。

どうぞ、山内委員。

○山内委員 山内です。さっきから言っているように、本当にニュアンスの問題だと思います。でも、これを見てどう教育に生かすかということについては、やっぱり現場の先生方の感覚というのはすごく大切だと思うので、ニュアンスがやわらかいほうが現場としてはいいということであれば、「目指します」がついても全然いいのではないかと思います。それで、保護者の立場から考えたときは、何が大切かといったら、その次に記載してあります。では、どうやって教育に結びつけるのかというほうがより大切なことなのです。だから、ニュアンスとしてはやっぱり現場の感覚を尊重するのがいいと思うし、こうして次のページ以降に、ではどうするかという方策がきちんと書かれているので、そんなにこの文言にこだわる必要はないのではないかと思います。

○田村会長 43ページ以降、市の主な施策というところで具体的に書かれており、もちろん「目指します」といっても努力しないわけではないので、これとあわせて見ていただくという、そういう形ですね。

- ○山内委員 はい。
- ○田村会長 どうぞ。

○上田委員 上田です。最初、私も「全国平均を上回ります」という言葉、ちょっと強過ぎると感じました。それで、先生方や皆様のお話をうかがっているうちに、私たち保護者からするとテストというともう点数が全てみたいなところがあったのですが、今うかがってどこがわからないのかということを知るための検査だということは、私たち一般市民は余り知らないですよね。ですから、それは何か知らしめる、周知させるような文章、ここでなくてもいいですが、学校でたまにこうい

うテストがありますが、これは点数が目標ではありませんということを教えていただくといいのではないかと。この文章からはちょっと外れますが、それがいいかと思いました。この「上回ります」と「目指します」については、本当にどちら側を書いていいのか私には言いがたいです。 以上です。

- ○田村会長 いかがでしょうか。
- ○中尾委員 私は増加を「目指します」のほうがいいと思います。理由は、全国平均を上回るという、全国平均が出てくるのは実施した後で、その後の結果ですよね。それを目標にするという言い方はおかしいではないですか。毎日の授業と努力について。
- ○田村会長 なるほど。そういう考え方もありますね。平均値はやった後出ますから。
- ○金子委員 すぐに出てくるのではありませんでしたか。
- ○田村会長 はい、どうぞ。
- ○総務係長 学テですと4月に行われますので、大体約9月、10月ぐらいに判明します。そして、 そこで平均値を出して翌年の点検評価で上回ったか下回ったかという形での表記はできます。
- ○田村会長 これは、前年度ではないですか。
- ○総務係長 前年度ではないです。
- ○田村会長 結局、今中尾委員がおっしゃったように全国で一斉にやっているわけですよね。それで全国平均が出て、四街道の平均が出ますよね。だから、平均がわかるのは後ですよね。
- ○総務係長 後です。
- ○田村会長 確かに全国平均がわかっていないとなかなか難しい。
- ○**金子委員** いわゆるスポーツの競技以外全部そうだと思うのです。別だったら余り議論にならない。ちょっと差がある話ですよね。
- ○田村会長 結果として上回ると。 いかがでしょうか。時間が大分押してきていますが。
- ○金子委員では、私の提案ですが、もう一度いかがでしょうか。

- ○田村会長 もう一度、お受けしますか。 時間的にどうですか。この配付。
- ○総務係長 もう少しだけだったら大丈夫なので。最終的に、策定委員会としての結論をいただけると、私どもはすぐに修正いたします。
- ○田村会長 そうですか。今の私の印象ですが、いろんな方に発言していただいて、現場感覚が大事だということが出されましたし、あくまでもこれだけが目標の計画ではないので、この全国平均を上回る、上回らない。この右側の今43ページ以降に、こういうふうに授業とか指導を展開していくのだということとあわせて読んでいただくと、「全国平均を上回ります」よりも、「全国平均以上を目指します」というほうが落ちつきはいいかと私は思います。花井委員が修正意見を出された文言で、私はその現場のご意見、それから保護者のご意見いろいろ、金子先生のご意見もいろいろ勘案して主流はそちらのほうではないかという判断をしておりますが、いかがでしょうか。

それで持ち帰っていただいて、もう一度。はい。

- ○総務係長 今会長からいただいたご発言「全国平均以上を目指します」というところで、もちろん今まで委員の皆様のご意見を重く受けとめまして、その結果がひとり歩きするようなことは決してないので、あくまでも学力テストというのは現在の状況、状態がわかる一つの手段であって、それをもとに今後はこの計画に書かれていることを実行していきたいと思います。
- ○田村会長 どう改善していくのかですね。
- ○総務係長 はい。学力テストは四街道市の教育の向上を目指すというところの一つのツールでしかないということで、教育委員も理解をしていると思いますので、今この意見を持ち帰って委員協議会でも諮っていきたいと考えます。
- ○田村会長 よろしいでしょうか。 そのほか何かございますか。花井委員、どうぞ。
- ○花井委員 花井です。49ページの1、現状と課題の次の行です。「近年団塊の世代の高齢化により、市民の学習意欲」のところ、この文章のつながりについてですが。この団塊の世代が高齢化というと、そのイメージですね、年とったというような、そんなイメージです。そうではなくて、高齢化した方々が増えることによって、何か文章を入れていただいたほうがいいのではないかと。ただ、学習意欲が、さらに高まっていますよ、というところにつながるような文言が。例えば市内や地域で活動する人が増えたとか。

- ○田村会長 この「高齢化により」と「市民の学習意欲」の間に何かもう一言入れる。何かございますか。もちろん言っていただいて。
- ○**花井委員** ここで私としてはそういう活動する人が増えるというようなニュアンスのものを入れていただければいいのですが、事務局として何かありますか。
- ○田村会長 はい。
- ○総務係長 貴重なご意見、どうもありがとうございます。市内で、団塊世代の方々で現役を引退されて、サークル活動とかさまざまな活動をされている方が多いということで、冒頭にも書かせていただいていますが、高齢化ということに対しては、いろいろなイメージがあると思いますが、私は決して高齢化というのはマイナスのイメージではないと思います。高齢化して成熟していくとか、年をとることで素敵になっていくということもありますので、必ずしもマイナスなイメージではないとは思います。ただ、今お話のあったように、市内で活動する人が増えるということは、一つの大きなキーワードになりますので、「近年団塊世代の高齢化により」の後に「地域で活動する人がふえるところ」という文言を一文入れさせていただいて、「近年団塊世代の高齢化により地域で活動する人がふえるところで、市民の学習意欲や健康志向、芸術スポーツ活動の策定、関心がさらに高まっています」というような形にしたいと思います。
- ○田村会長 いかがでしょうか。
- ○**花井委員** 地域にとどまらず市内全体で活動する方もいらっしゃると思います。その地域の捉え方が、いわゆる行政サイドの例えば鹿渡という地域を捉える方や、或いは市内全体と捉えるのか、これは捉え方が人によって違ってくると思います。ですから、市内や地域でというように「市内」も入れていただけないですか。
- ○田村会長 はい。
- ○総務係長 ここは、「市内」というと、これは四街道市の計画であり、当然に市内も含まれますので、地域だけにしたのですが、委員がおっしゃるのであれば、「市内や地域」ということでどうですか。
- ○山内委員 「地域社会」で出したらいいのではないですか。
- ○総務係長 「地域社会」で活動する人が増えたと言えば。
- ○田村会長 いいのではないですか。 はい。

- ○総務係長 今、山内委員がおっしゃっている「地域社会で活動する人が増えたので」と、それは 修正させていただきます。もちろん花井委員がおっしゃった「市内」というのはわかりますが、ご 理解いただければ幸いです。
- ○田村会長 そうです。これは、もともと四街道市教育振興基本計画ですから。
- ○総務係長 あえてそこは「市内」と書かなくてもいいかと。ただ、地域だと限定されたようなイメージがあるということであれば、今、山内委員がおっしゃったような地域社会でということのほうが一般論と捉えます。
- ○田村会長 一般的には一般でしょうね。 そのほか何かございますか。金子委員。
- ○金子委員 金子です。47ページの子どもに向き合える環境づくりということなのですが、文言について、私はもうこれ以上変えることは申しません。ただ、私も、前2回にわたっていろいろお話をしました。これ以上言うべきことではないかもしれませんが、アンケート調査のところでかなり改善されたということは個人的には考えていました。それで、まず実際に学校の先生の忙しさというのは、他の市町村と比べてどんな感じなのでしょうか。逆に事務局にお聞きしたい。先生方の忙しさというのはどれだけ認識されているかということ。四街道市は、自治体としては楽なほうなのですか。やっぱり「常に忙しい」というのが5割あったら決して正常な状態ではないと思います。この状況についてはどうでしょう。やっぱり、子どもと向き合う時間をつくるように努力するべきではないかと思いますが、そのあたりいかがなものかと。
- ○田村会長 これは、どなたになるのか。あるいは現場の先生か。なかなかわかりにくい。
- ○金子委員 それは、それで。実は、この中でここに書いてある。調査や報告事務の簡略化や見直 しについては事務の簡素化に役立つと思います。それで、調査報告などは学校自身ではなくて教育 委員会自身が、教育委員会のほうから調査をしろと言われたり、あるいは教育委員会宛てに全国学 テ、それをそのまま学校に流していたりしないだろうとか。私が言いたいのは、教育委員会自体で 調査報告書の事務の簡略化をもっと前向きに捉えていただきたいですが、いかがですか。なるべく 教育委員会でブロックしていただきたいです。ちょっと、その辺のことをお聞きしたいのですが。
- ○田村会長 何かございますか。どなたがお答えになりますか。
- ○金子委員 結果がわかれば。
- ○田村会長 どうぞ、教育部長。

- ○教育部長 金子委員がおっしゃるように、確かに国、県を通していろいろな調査について、教育委員会で各学校に問い合わせることは正直あります。ただ、うちの職員の中ではそのあたりは厳選しまして、学校に負担がかからないようにある程度調整はしておりますが、教育委員会事務局としての学校の忙しさというのは認識しております。調査物に関しましては、なるべく学校に負担がかからないように調整しております。
- ○安江委員 私自身、他市と比べて四街道市の先生はどうかという調査はしたことがないのですが、自分が現場にいて四街道市は限られた予算の中でとてもよく考えてやっていただいているとは感じます。校務支援システムも、まだ導入されていない市もありますし、割と早い導入だと思います。あと、生徒指導補充教員や少人数学級推進教員と、これは本当に他市に誇れるようないい制度で、現場にとっては、子どもを迎える環境をつくっていただいていると思います。研修も精選したものになってきているし、もっともっとやってもらいたいと思っています。

あと、毎年、現場からの声を上げて、要望ということで教育委員会に校長会としても毎年ちょっと無理な要望を出して、今年も8月に出しに行くのですが。それは、いろいろな事務職員の要望、栄養士の要望、養護教諭の要望等も含めて校長会でまとめてよろしくということで要望を出しています。それで、その中で改善していただけることは改善していただくこともやっていただいているので、もっともっとやっていただくとありがたいです。そういうことで、やっていただいているのではないかと感じております。

- ○金子委員 結構でございます。安心しました。
- ○田村会長 どうぞ。
- ○**花井委員** 38ページの一番下の2番の豊かな心を育む読書活動の推進という中の1行目、市子ども読書活動推進計画というのは、今、第何次とかになっていなかったですか。私の思い違いかもしれないのですが。
- ○田村会長 はい、どうぞ。
- ○総務係長 今現在は、市子ども読書活動推進計画第3次です。ただ、教育振興基本計画は5年間にわたります。その計画を進める過程で、読書活動推進計画は第4次、第5次と続きますので、その回数については書かないで名称だけにいたしました。ご理解いただきたいと思います。
- ○花井委員 はい、承知しました。
- ○安江委員 今のものに関連してよろしいでしょうか。

- ○田村会長 はい、どうぞ。
- ○安江委員 この読書の推進についてなのですが、19ページのところでいうと、今後の課題①、豊かな感性を育む教育を推進しますの中の読書活動について、「学校内の読書活動推進体制のさらなる強化が課題です」と課題として出されていますが、それに対して37ページや、38ページで、その課題に対してどのようにしていくかということが書かれていません。ほかのところの項目について書かれているようですが、この読書活動の推進体制の強化というところに関して書かれていないので、そこを含めたほうがいいと思います。
- ○田村会長 今の38ページのこの文言に加えてということですか。
- ○安江委員 そうです。
- ○田村会長 どうぞ。
- ○総務係長 19ページのところの学校内読書活動推進体制についてですが、点検評価の中では大分進んではいると聞いております。ただ、よりレベルの高い目線でいくと、さらに努力が必要だというところだと思います。前回、ここの課題で書かせていただいたのですが、その内容については内部で検討させていただいて、検討の結果で追記をさせていただければと考えております。内部で検討させてください。
- ○田村会長 よろしいですか。
- ○安江委員 はい。

4. その他

○田村会長 今ちょうど4時半なのですが、時間がここまでということですが、どうしても何かここでもう少し意見をという方はいらっしゃいますでしょうか。

もしよろしければ、この後の形がどうなるかというのは教育総務課長から、今後の予定ですね、 どのように。

- ○教育総務課長 その他でよろしいでしょうか。
- ○田村会長 その他の議題。何かございますか。はい。
- ○教育総務課長 次回第5回の策定委員会の関係になりますが、その案件でよろしいでしょうか。

○田村会長 もしご意見なければ、次回と、それから今後の予定についてというお話になるのですが、よろしいでしょうか。

では、どうぞ。

○教育総務課長 それでは、次回第5回目の策定委員会についてご説明させていただきます。

次回、第5回教育振興基本計画策定委員会につきましては、9月27日木曜日、15時からここ青少年育成センター2階会議室で行う予定です。内容につきましては、計画書案及び答申についてということを予定しております。今回委員の皆様からいただきましたご意見を反映させまして、明日行われます教育委員会委員協議会におきまして、教育委員会にまず報告するとともに、素案内容を検討させていただきます。その後、8月の教育委員会会議定例会におきまして、この素案をもって教育委員会から市教育振興基本計画策定委員会への諮問について、決議を受けまして正式に諮問とさせていただくものです。

次回の会議におきましては、教育委員会から諮問されました素案をもとにご意見をいただきまして、事務局で取りまとめた上、市教育振興基本計画策定委員会、田村会長様から教育委員会へ答申をいただく予定で考えています。

なお、次回の会議で市教育振興基本計画後期計画に係る策定委員会は終了する予定ですが、10月 以降に行われますパブリックコメント、こちらにおきまして大幅な修正等がもし仮にあった場合に つきましては、最終確認として12月に再度また開催をさせていただくことも考えています。その場 合につきましては、事務局から改めて通知をさせていただくという計画ですが、一応、次回は最後 となります。

事務局からは、以上です。

○田村会長 そうすると、8月の教育委員会会議定例会で正式に諮問がある。まだ諮問は出ていないです。それで、一応きょうの会議の結果を事務局でまた訂正、修正をしていただいて、それが教育委員会に諮るということですね。そして、そこから8月に諮問が出て、9月27日木曜日に第5回策定委員会を行う形になっています。

よろしいでしょうか。

(異議なし)

- ○田村会長では、そういう形で進めさせていただきたいと思います。 何か、ほかにございますか。 はい。
- ○金子委員 この最終案ではなくて。
- ○田村会長 ですから、これをもとに少し訂正したものを明日諮るのですね。今日の意見も。
- ○教育総務課長 今日の意見も説明させていただいて、そこから再度教育委員からまた意見がある

と思いますので、そこを受けて最終調整をして、それで教育委員会議に諮りまして、その後、議決を受けたものを諮問という形でご提示したいと思います。それを受けてご意見をいただいて、まとめたものを答申書という形で、最終的に田村会長から教育委員会に出していただく。そういう流れです。

また、パブリックコメントなどのときも委員の皆様に情報は提供したいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

○田村会長 はい、わかりました。

5. 閉 会

○田村会長 では、よろしいでしょうか。長時間、どうもありがとうございました。

策定委員会会議、これで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

署名

四街道市教育振興基本計画策定委員会会長

田 _ 村 孝

四街道市教育振興基本計画策定委員会

上田由佳子

四街道市教育委員会教育総務課長

伊藤克紀